

別冊 おおいだものがたり

～資料館資料編～ ■「高嶋祥光と板垣家子夫」展より

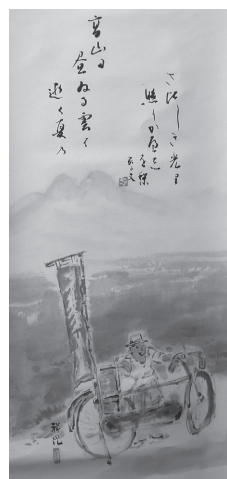
資料館では現在「高嶋祥光と板垣家子夫」展を開催中です。村山市出身の日本画家・高嶋祥光と本町の歌人・板垣家子夫は年齢や活躍の場は異なるものの、共に村山農学校出身の同窓生で、斎藤茂吉文化賞を受賞しています。この度の企画展では二人それぞれの作品だけでなく書画合作のコラボレーション作品も複数展示しています。

同一の画面に絵画と書が一緒になった作品を見かけたことがあるかと思います。この書の部分を「賛」あるいは「画賛」と呼び、もとは絵画の出来栄えに対する賛辞が書かれました。自らの絵を自ら賞賛する「自画自賛」はここから来ています。この画賛は画題を問わず風景画にも人物画にも付けられ、しだいにその内容や意味も変化していきます。

例えば禅宗では師の肖像画「頂相(ちんそう・ちんぞう)」が弟子に授けられましたが、ここには伝法の印可を示す賛が書き入れられています。禅宗においては師と弟子との繋がりが重視されたため、師僧の肖像と共に書かれた賛は生の声と同質であるということで非常に尊重されました。

平安時代には和歌に詠まれた情景やその歌の情趣を絵画化した「歌絵」や、三十六歌仙らの人物像にその詠歌を添えた「歌仙絵」といった形式が成立します。また室町時代以降山水画が隆盛をみると、賛として漢詩が多く書かれることになり、江戸時代には俳画というジャンルも登場します。このように画賛と絵画は文学的な内容と視覚的な内容が補完しあう関係になり、書画両方を鑑賞する現在のよう形態となりました。

さて、今回ご紹介するのもそんな書画合作の作品です。板垣家子夫の短歌「高山に昼いる雲は逝く夏のさひしき光り照りかへしをり」が画賛です。残暑厳しい中にも秋の気配を感じ、夏の名残りを惜んでいるような情景でしょう。画面下方には自転車と男性が描かれていますが、赤いのぼり旗には白抜きの文字があり、どうやらアイスクリームの移動販売のようです。この絵には「祭り」という題があり、ちょっとした夏祭り特有の浮き立つ気分があります。しかしここに「逝く夏の寂しき光」というエッセンスが加わると、その期待感も含めてどこかノスタルジックな寂しさが強調されるようです。秋の高い空を思わせる遠くの山々から、そう遠くないうちに夏が終わってしまうのだな、というなんともいえないもの悲しさを感じてしまいます。画と賛が引き立てあい、相乗効果で鑑賞を深めてくれる良作です。(大石田町立歴史民俗資料館 大谷)



「高嶋祥光と板垣家子夫」展は令和7年1月26日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

**友だち登録を
お願いします!**

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和6年11月1日現在

世帯数	2,220戸	(-2)
総人口	6,007人	(-7)
男	2,990人	(±0)
女	3,017人	(-7)

(10月中の異動)

出生	2人	転入	8人
死亡	9人	転出	8人

※この人数は外国人も含めたものです。